

TOSHIRO HATA PRESENTS

波多利朗の

## Funky Corner

文・撮影●波多利朗 text and photo by Hata Toshiro  
 (URL) <http://www.funkygoods.com/>  
 (E-Mail) [catty@mxp.mesh.ne.jp](mailto:catty@mxp.mesh.ne.jp)



## 携帯ゲーム端末「P/ECE」専用日本語エディタ、 P/Editを使う

### 📷 コダックのデジカメのこと

筆者とデジカメとの本格的なお付き合いは、コダック DC210 Zoomに始まる。当時デジカメはなかなか手を出すことができない高嶺の花商品であった。そんなとき、PC WAVE誌のライター仲間であった某氏が、金に困って自分のデジカメを格安で売りたいと言ってきた（それにしても、どうして同誌のライターは金に困った人ばかりなのだろうか…… ^ ^;;）。こうした経緯で入手したデジカメが、DC210 Zoomだったというわけである。

このDC210 Zoomという機種は、1/3インチCCDを使用した109万画素のデジカメであった。今でこそ100万画素のデジカメなどは格安入門機もいろいろあるが、当時としてはなかなかの高スペックであった。実際に撮影してみて、「おお！ これがオーバー100マンガソの画像か！」と感動したことを今も覚えている（考えてみればカワイイもんだったねえ……）。

さて、コダックのデジカメは総じて発色が良い。デジカメの画質には各人の好みもあるだろうが、根がラテン系な筆者は、コダック製デジカメの、シャープさには若干欠けるものの、非常に鮮やかな画質が超気に入ってしまったのである。今思うと、この機種を使ってしまったが故に、筆者はコダックのデジカメにハマってしまうことになったのだ (A)。

さてDC210 Zoomは、デジカメとしては珍しく35mm換算で29mmという広角寄りのレンズを搭載していた。広角マニアの筆者としては、この仕様もいたく気に入るところとなる。しかし、単三電池4本を使用する電源は、電

池の持ちが異様に悪く、液晶モニタファインダーを使用して撮影しようものなら、あっという間に電池が無くなってしまったものだ。

さて、筆者が次に購入した機種は、DC260 Zoomであった。実はこのカメラ、ボーナスが出たからまたコダックのデジカメでも買ってみようかといった軽いノリで購入したものだ。

DC260 Zoomは、1/2インチCCDを搭載した160万画素のデジカメである。焦点距離は35mm換算で38～115mmと、光学3倍ズームを搭載しているものの広角寄りでは無かったため、引きが取れない室内の撮影では往生した。ゴロゴロとした大きな本体と、525gという天下無敵の重量で、携帯性は損ないまくっていたが、コダックの発色の良さは健在で、かつ非常に堅牢な設計であった。

筆者は、廃墟廃村の撮影という極北の趣味を持つが、撮影の際にはDC260 Zoomをよく使用した。とにかく、ぶつけたり落としたりしても全く壊れない。これほど頑丈なデジカメは、ちょっとお目にかかったことがない。世界初のOS搭載デジカメというマニアックな仕様もユニークだったが、いかんせん動作スピードが超のろかった。およそ、シャッターチャンスといったものを全く考慮していないような設計だったのだ。しかし、筆者はこのカメラを本体にプリントされたロゴの文字が擦り切れるくらい酷使した。

DC260では広角側が不足していたため、やはり広角寄りのデジカメが欲しくなってきた。そこで次に購入したのが、DC280J Zoomである。DC280J Zoomは1/1.76インチCCDを搭載した230万画素のデジカメで、30mm～

## DIGITAL CAMERA

④筆者が使用してきたコダックの歴代デジカメたち。これまでにDC20、①DC25、DC210、DC260、DC280、DC3800、DC4800といった製品を使用してきた。ちなみに、この写真はCANONのIXY DIGITAL初代機を使って撮影した

### DC4800用 ワイド コンバージョン レンズ⑤



⑤専用オプションのフィルターアダプタを装着した、0.6Xワイドコンバージョンレンズ、WCL-4800。KODAK EKTANARワイドコンバージョンレンズの口径は56mm程度もあり、大迫力。これをつければ16.8mmの超広角を手に入れることができる



DC4800本体

④標準で28mmという、比較的広角寄りの仕様となっているコダックのマニア向けデジカメ、DC4800。画素数こそ3メガピクセルと標準的ではあるが、その操作性は銀塩カメラに迫るものがある

⑤ワイドコンバージョンレンズは、専用のフィルターアダプタを介してDC4800本体に装着する。レンズそのものが大きいため装着するとこのとおりかなりの迫力となる。とてもデジカメとは思えないような押し出しの強さ!

### コダックの 歴代 デジタルカメラ 揃い踏み



ワイドコンバージョン  
レンズを装着した  
DC4800

60mmの光学2倍ズームを搭載していた。以前のコダック製品と比較すると、起動時間もバッテリーの持続時間も大幅に改良され、バランスの良いカメラであったが、どこを取っても90点のマジメな優等生の如く、どことなく面白みという特徴の欠け、実はあまり使わなかった。

さて、デジカメも200万画素を超えてくると、だんだん銀塩の世界に近づいてくる。と同時に、操作系も銀塩ライクなものが増えてくるものだ。そこで購入した機種が、DC4800だったのである。とにかくこのカメラ、操作性が銀塩とほとんど変わらないくらいマニアックな仕様となっている。

DC4800は1/1.75インチCCDを搭載した310万画素のデジカメで、焦点距離は28mm～84mmと極めて広角寄りだ。そして、専用オプションのフィルターアダプター (FA-4800) を介してKODAK EKTANARワイドコンバージョンレンズ (WCL-4800) を装着すれば、実に16.8mm (!) という驚異の広角画面を得ることができるのだ!

まさに銀塩カメラ感覚で使うことができるのである (写真⑤、⑥)。

さすがにワイドコンバージョンレンズを装着すると、画像周辺部は魚眼レンズのように歪みを生ずるが、狭い室内の写真撮影するときなど、非常に便利である。というわけで、最近ではほとんどDC4800とワイドコンバージョンレンズを愛用している (⑦)。

マニュアルライクな操作性が一部マニアに絶賛されたDC4800であったが、結局販売台数は思ったほど伸びることなく、発売中止となってしまったのは残念だ。反面、人と違ったモノを持つ優越感に浸る恩恵を受けることができたのである、とこう書いたところで、本誌の筆者担当のK池さんからメールをいただいた。なんでも、モバプレ副編のI東さんの愛用デジカメが、DC4800だそうである……。さすがといひかなんとといひか…… ^ ^ ::


## P/ECEについて

さて、前フリはこのくらいにして、本題に入ろう。今回は、携帯ゲーム端末「P/ECE」にまつわるハナシである(001)。

本誌の2001年冬号でも紹介されていたが、P/ECEはアクアプラスが昨年暮れに発売した携帯ゲーム端末だ。本体は名刺よりも若干大きい程度。重量は電池込みで92g(電池無しで67g)しかないため、持ち運んでいるという感覚が全くない。従来のゲーム専用端末と決定的に異なる点は、製品にC言語を使用した開発環境が同梱されていることと、ユーザが制作したソフトウェアは、ロイヤリティー&ライセンスフリーであるため、配布・販売が自由であるという点であろう。

P/ECEのパッケージは実に質素である。本体と超簡単な取り扱い説明書、それにソフトウェアが入ったCD-ROMといった構成だ(002)。

なお、P/ECEにはカラーバリエーションがあり、本体が銀色の初代機の他に、白色のものもある。この白P/ECEの外箱は、銀P/ECEと若干異なっている(003)。

 P/ECEの詳細についてはゲーム専門誌等にまかせるとして、今回はこの端末上で動作する日本語テキストエディタについてご紹介する。前号でもちょこっとご紹介したが、「柴隠上人 稀瑠冥間守(Kerberos)」氏が、P/ECE上で動作する日本語テキストエディタ「P/Edit」を開発した。「柴隠上人 稀瑠冥間守(Kerberos)」氏といえば、かのPsion Sereis3系上で動作する日本語エディタ「JEdit」の作者として、ディープな輩の間では有名な人物である。実際、「柴隠上人 稀瑠冥間守氏を知らないPsionユーザはモグリである」とまで



**P/ECE本体**  
電池込みで92gしかない超小型ゲーム端末、P/ECE本体。隣の単三乾電池が大きく見えるほどだ。この初代機も既にかなり品薄になっており、入手困難になりつつある。購入するなら今のうちだ！(と、たきつけてど〜する！)

言われているようだ。筆者と柴隠上人 稀瑠冥間守氏との付き合いは、かなり長い。その昔、秋葉原のPCショップ「プロサイド」が、元バナナの貯蔵所を改築してアウトレットをやっていた頃からであろうか？ いや、それよりももっと前、ラジデパ地下一階の「エレパ」で、IBM互換機にPC98キーボードを繋ぐ「98キーボードアダプチャー」が売られていた頃からであろうか？ いやいや多分それよりももっと前、国際ラジオの店先でintelの8080評価ボードがダンボール箱に突っ込まれて売られていた頃からであろう。

ところで完全に余談になるのだが、ケルベロス(Kerberos)というペンネームについて脱線してみよう。ケルベロスとはギリシャ神話に出てくる地獄の番犬のことであるが、日本では押井守監督作品「紅い眼鏡」を思い浮かべる人も多いであろう。かく言う筆者も押井監督の大ファンであり、「紅い眼鏡」は初公開時、キネカ大森で整理券をもらってまでして見た経験があり、さらに、LDはセリフを覚えてしまうほど繰り返し鑑賞したもの



**002**  
携帯ゲーム端末P/ECEのパッケージと本体  
P/ECEのパッケージは質素そのもの。本体と極めて簡単な取説、それにソフトウェアCD-ROMの構成となっている。初代機の型番は、PME-001



**003**  
白P/ECEと銀P/ECE  
P/ECEにはカラーバリエーションがある。左側のP/ECEは、本体の色が白い通称白P/ECE。パッケージも初代機である銀P/ECEと異なる

だ。こういった濃いペンネームを自称していることから察するに、柴隠上人 稀瑠冥閻守氏も押井氏作品に造詣が深い、マニアックな人間であろうことは想像に難くないのであるが、その正体について、実はほとんど知られていないのである。ただ、ATARI Portfolio、Poqet PC、Psion Series3、Psion Sienaといった数々の変態超マイナーマシン上で動作する日本語エディタを、続々と開発したという経緯ことから想像するに、そーとー変な人であることに間違いはない。これら一連の日本語エディタの究極として開発されたものが、今回ご紹介するP/Editということなのである。

ところで、筆者もP/Editを使ってみようと、P/ECEを購入しに秋葉原へと出向いてみた。ところが……、である。パソコンショップの携帯端末売り場をいくら探しても、まったく置いていないのだ。そう、P/ECEは携帯ゲーム端末なのである。よって、ポケビードとかザウルスだとかといった、普通の携帯端末を販売しているショップに行っても、P/ECEは置いてない。ゲーム専門ショップで購入しなくてはいけないのである。というわけで、筆者は石丸電気ゲーム1にて、P/ECEを無事購入することができた。ちなみに、P/ECE初代機は、現状かなり品薄になっているようで、在庫切れのショップも多かったことを付け加えておこう。

## 🌀 P/Editの祖先

P/ECE用の日本語エディタ、「P/Edit」のベースは、同じく柴隠上人 稀瑠冥閻守氏が数年前に開発したPsion Series3a上で動作する日本語エディタ、JEditである。そして、実はJEditは、HP95LX用の日本語エディタである

「JMEMO」の公開ソースコードを元に作られている。従って、P/Editの祖先は、実にJMEMOまで遡ることができると言えよう。JMEMOについては、本誌2001年冬号の本コーナーにてご紹介したので、参照されたい(004)。

ところで、「柴隠上人(さいおんしょうにん)」というペンネームが表しているように、氏はPsionシリーズ、とくにSeries3系をこよなく好む。氏は、日本語環境が整備され、名実ともにメジャーマシンとなってしまったSeries5には全く興味を示さず、Series3系マシンに異常な愛情を注ぎ込んだ。その結果生まれた日本語エディタが、JEditなのである(005)。

当時、というか現在に至るまで、Psion Series3系で動作する日本語エディタとして、筆者はこのJEditくらいしか思い浮かばない。日本でもヒットしたSeries5と比較すると、Series3系はアーキテクチャーも若干特殊であり、ユーザの数も少なかった。そのため、日本語環境の整備という点では、完全に取り残されていたマシンだったと言える。そのような状況の中、簡易的ではあるものの日本語でメモを取ることができるJEditの果たした役割は、大きかった。

なおJEditには、Series3、3a、Siena用のものに加え、なんとWorkabout用のものも用意されている。SienaやWorkaboutに至っては、かなりのマニア君でなければ、お目にかかったことも無い機種であろう。

さて、JEditの思想は、CGAマシン用日本語エディタ「PED」へと発展する。謎ば〜機上で日本語のメモを取ろうとした場合、一般的にはディスプレイドライバやフォントドライバを組み込んでマシン上に日本語環境を構築し、その上でVz等のエディタを使用するという方法が



**HP95LX上で動作するJMEMOの画面**  
P/ECE上で動作する日本語エディタ、P/Editの遠い祖先にあたるものが、HP95LX上で動作するJMEMO。JMEMOについては、本誌2001年冬号の本コーナーにてご紹介したので参照されたい



**Psion Series3a上で動作するJEditの画面**  
柴隠上人 稀瑠冥閻守 (Kerberos) 氏が開発した、Psion Series 3a系マシン上で動作する日本語エディタ、JEdit。写真はSeries 3a上で動作しているが、Series3やSiena、Workaboutといった各種Psionシリーズ上でも利用することができる



### CGAマシン用日本語エディタ「PED」

JEditは、その後CGA汎用機向け日本語エディタ、PEDへと発展する。写真はSHARP PC3000上で動作しているCGA版PED。英語環境DOSのままプログラムを実行させるだけで、即日本語が使えるようになるPEDは、謎ば〜機にとって非常に便利なアプリケーションであった



### ATARI Portfolio上で動作するPED

画面仕様が特殊な Atari Portfolio上で日本語を扱うための専用エディタもある。Portfolio専用PEDは、ハードウェアリソースに応じて3種類が用意されていた。Portfolioという究極的なマイナーマシン向けに、これだけの種類の日本語エディタを用意するとは、もはや執念以外のなにもでもなかならう！

取られている。しかしこの方法だと、日本語環境構築のための手間がかかる。また、マシンのアーキテクチャー上、ドライバ類を組み込むことができず、日本語環境そのものを構築することが不可能となるケースも有り得る。そこで、ネイティブな英語環境下で起動させるだけで日本語を使うことができるエディタ「PED」が、同氏により開発された。DOSベースの謎ば〜機は、ほとんど

CGA画面を採用していたため、PEDは極めて汎用性の高い日本語エディタであると言えた(006)。

しかし、当然のことではあるが表示画面がCGA仕様ではないマシン、たとえばATARI Portfolioのような特殊仕様の液晶画面を持ったパームトップ機上では、PEDを利用することができなかった。ところで、柴隠上人 稀瑠冥閻守氏は大変なPortfolioマニアでもあった。氏はパームトップ機の原点たるPortfolioもこよなく愛し、所有台数は10台を超える、っていうか、10台も所有するかよフツーという感じなのだが、本当のことだから驚くしかない。当然の帰結として、Portfolio用PEDが開発されることとなる。なお、Portfolio用のPEDとしては、下記が用意されている(007)。

- PED.EXE (ノーマル版PED)  
512KB以上のメモ리카ードを持つPortfolio用
- PEDR.EXE (高速RAMフォント版PED)  
内蔵メモリをノーマルの128KBから512KBに拡張した機種用
- PEDMINI.EXE (軽量版PED)  
内蔵メモリが128KBのノーマル版用

以上見てきたように、P/Editの祖先は多岐に渡る。マ

イナーで変態なパームトップ機用として開発された日本語エディタである「JEdit」や「PED」の、ある意味極北、究極の形として、P/ECE用の日本語エディタP/Editが登場したと言っても差し支えないであろう。

## 🌀 P/Editの導入方法

さて、それではさっそくP/EditをP/ECEに導入してみよう。その前に、P/ECEのBIOSを最新のものにアップデートしておこう。最新BIOSは、

<http://www.piece-me.com/>

の中に掲載されている。ちなみに2002年4月19日現在の最新バージョンは、Ver1.18となっていた。

カーネルを最新のものにアップデートしたら、P/Edit本体をダウンロードする。とりあえず筆者の個人HPに格納しておいたので、そこからでも落として使用していただきたい。アーカイブ名は、「pedit208.lzh」となっている(008)。

<http://www.funkygoods.com/nazopa/piece/>

ダウンロードしたアーカイブを解凍すると、下記のフォルダとファイルが生成される。

### ●pieceフォルダ内

- a) pedit.pex (アプリケーション本体：P/ECE用)
- b) pedit.dic (かな漢字変換辞書ファイル：P/ECE用)
- c) pedit.idx  
(かな漢字変換辞書インデックスファイル：P/ECE用)
- d) pedit.txt (この操作説明書)

●pc-idxフォルダ内

- e) mkpindex.exe  
(かな漢字変換辞書カスタマイズ用ツール：PC用)
- f) mkpindex.txt (辞書カスタマイズ用ツールの説明書)

●pc-keyフォルダ内

- g) mkkmp.exe  
(キーアサインカスタマイズ用ツール:PC用)
- h) sample.def  
(サンプルキーアサイン定義ファイル：参考用)
- i) default.def  
(デフォルトキーアサイン定義ファイル：参考用)
- j) freq.def  
(日本語文字出現頻度対応キーアサイン定義ファイル)
- k) pedit.kmp  
(上記の出現頻度対応のキーアサインリマップファイル)
- l) mkkmp.txt  
(キーアサインカスタマイズ用ツールの説明書)

必要となるファイルは「piece」フォルダの中の下記3つだけである。

- pedit.pex
- pedit.dic
- pedit.idx

上記3つのファイルを、P/ECEコミュニケータを使用しP/ECE本体に転送すれば、インストールは終了する(009)。

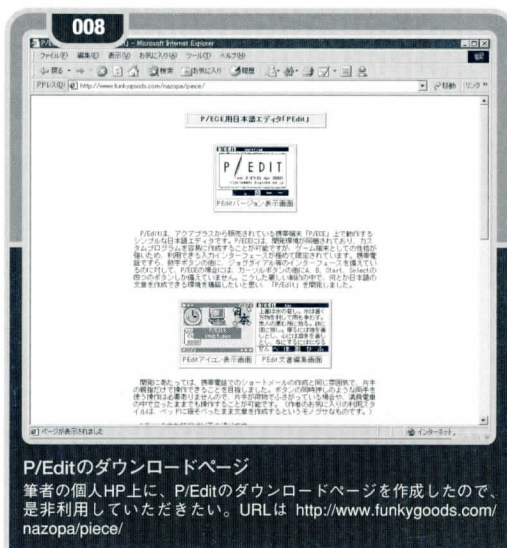
なお、P/ECEでP/Editを動作させるためには、下記条件を満たしていることが必要である。

- P/ECEカーネルバージョン1.18以上
- 170KB以上のフラッシュメモリ空きスペース (プログラム本体19KB、辞書ファイル135KB、起動時必要容量16KB)

## 🔗 P/ECEでの日本語入力

JEditにしろPEDにしろ、使い方はそれほど複雑ではない。ある程度操作すれば、誰でも簡単に使うことができる。しかしそれは、キーボードという便利な入力デバイスが用意されているからこそなのである。

P/ECEは、ご覧のとおり、操作系ボタンの数が極めて



少ない。もともと携帯用ゲーム端末というコンセプトの元に作られたものであるから、少なくても当然である。しかし、今時の携帯電話ですら、20個以上のキーがあるのに対し、P/ECEではボタン4個と十字カーソルキーしか用意されていない。このような極限のハードウェアリソースの中で、いかにして効率的に日本語を入力して行くのかが、P/Edit開発時の最大の課題だったのである。

限られたキーで日本語を入力しなくてはならないP/Editを使うにあたっては、操作系の慣れが必要となる。しかし、これを覚えてしまえば、全ての操作を片手で行うことができるので、寝っころがってようやく電車の中でつり革につかまっていようが、とりあえず片手が空いていれば日本語をメモを取ることが可能なのだ。加えて、携帯ゲーム端末上で日本語テキストエディタを使い文章を書くといった、ある意味かなりカオスな環境を楽しむことさえできる。ゲーム端末でビジネス文書を作成、なんてのは、なかなか痛快ではないか！



## P/Editの使い方

それでは、実際にエディタを起動して日本語を入力してみよう。その前に、P/Editの各ボタンの基本動作について、説明しておく。

### ●Aボタン

ポップアップメニュー表示用ボタン。ポップアップメニューでは、ファイルの保存や行コピー／ペースト、カーソルの移動、入力モードの変更等の操作が行える

### ●Bボタン

操作を取り消したり、戻ったりする時に使うボタン。パソコンで言うならば、ESCやDELキーに相当するものである。操作をキャンセルさせる場合には、とりあえずBボタンを押す

### ●STARTボタン

かな漢字変換の開始や、変換位置変更の機能を持つ。また、最後に入力した文字列を復元する機能もある

### ●SELECTボタン

入力文字列やかな漢字変換候補の選択の機能を持つ。また、Aボタンを押してポップアップメニューを表示した際には、メニュー選択機能も有す

### ●十字カーソルキー

変換文字列の表示切り換えやかな漢字変換候補の表示切り換えの機能を持つ

P/Editの起動は、P/Editのアイコンを選択してAボタンを押す(010)。起動すると、画面最上段にタイトルバーが、また最下段にかな漢字変換用のシステムラインが表示される。システムラインの右端には、「.:」記号が表示される。システムライン左端を、「変換バッファ」と呼ぶことにする。以上の状態がスタート画面となる。

例として「にほんご(日本語)」と入力し、漢字に変換してみよう。

①十字カーソルキーを上方向に押すと、システムライン右端の表示が「あ」「か」「さ」「た」「な」と変わる。最初の文字である「に」は「な」行になるため、「な」が出るまで上方向キーを4回押す

②続いて十字カーソルキーの右方向キーを1回押すと、システムライン右端に「に」の文字が現れる。この状態でSELECTボタンを押すと、「に」はシステムライン左端の変換バッファに入る

③次の文字「ほ」は、「は」行にあるため、システムライン右端に「は」が表示されるまで十字カーソルキーを押す。この場合、下方向キーを5回押したほうが、キーを押す回数が少なくて済む

④続いて、「ほ」を選択するのだが、この場合も左方向キーを1回押すだけで「ほ」が表示される。次にSELECTキーを押せば、システムライン左端には、「に」に続いて「ほ」の字が入力される

⑤上記の操作を繰り返して、変換バッファに「に」「ほ」「ん」「ご」と入力していけばいい。ここで濁点がある「ご」の入力方法であるが、「こ」を選択し変換バッファに入れた後、「.:」が出ている状態で、SELECTキーを押すと「ご」に変換される

⑥システムライン左側の変換バッファに「にほんご」と平仮名が入った状態で、今度は漢字変換作業を実施する。この状態でSTARTキーを押すと「にほんご」の文字が反転表示される。この状態で十字カーソルキーの右方向キーを押せば、変換バッファに「日本語」が表示される

⑦変換文字列がこれでいい場合には、そのまま上方向キーを押すと、文字がエディタに入力される。他の変換



P/Editのスタート画面

画面下のシステムライン右端には、「.:」記号が表示されている。この状態で日本語を入力できる



「日本語」と入力しているところ

SELECT、START、十字カーソルキーを駆使して、かな漢字変換を行う。難しそうではあるが、慣れてしまえば、意外と簡単に入力できる

候補を探す場合には、左右方向キーで目的の漢字が表示されるまで探せばよい。ちなみに、カタカナで「ニホンゴ」と入力したい場合には、「にほんご」が反転表示されている状態で、下方向キーを1回押せば、カタカナに変換される

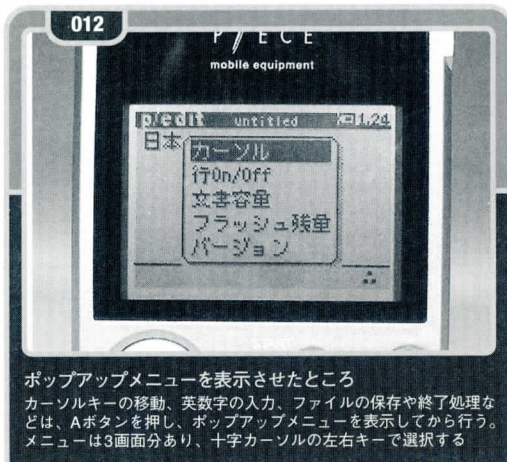
以上が基本的な文字入力方法である(011)。その他、文字入力が必要と思われる操作方法を、下記に示す。

- ・「骨董(こつとう)」と入力する場合の、小文字の「っ」の入力方法は、「こ」を変換パッファに入力した後、右方向キーを1回押して「..」表示を「…」に変え、SELECTキーを1回押すと「こっ」と表示される

- ・「社長(しゃちょう)」を入力する場合の小文字の「ゃ」の入力方法は、変換パッファに「し」と大文字で入力した後、右方向キーを1回押して「…」表示にしてからSELECTキーを2回押すことで「しゃ」と表示される。ちなみに、この状態でSELECTキーを押すことで、「っ」「ゃ」「ゆ」「よ」「え」がトグルで切り替わるため、「しゃ」「しゆ」「しよ」などといった文字入力に便利である

- ・改行コードやTAB、半角スペースを入力したい場合には、システムライン右端に「ん」を表示させた状態で、左右のカーソルキーを押すと「CR」や「TAB」や「SP」といった文字が出てくるので、そこで選択する

- ・カーソルを移動させる場合には、Aボタンを押してポップアップメニューを表示させた後、十字カーソルキーの右方向キーを押して「カーソル」を表示し選択する。この状態で、十字カーソルキーでカーソル位置を移動させることが可能だ



ポップアップメニューを表示させたところ

カーソルキーの移動、英数字の入力、ファイルの保存や終了処理などは、Aボタンを押し、ポップアップメニューを表示してから行う。メニューは3画面分あり、十字カーソルの左右キーで選択する

- ・英数字を入力する場合には、Aボタンを押してポップアップメニューを表示させた後、入力モードを選択する。するとシステムライン右端に「LW」という表示が出る。この状態でアルファベットを選択して変換パッファに入れると、英小文字が入力できる。「LW」表示の状態ではSELECTを1回押せば、「UP」という表示になる。この状態でアルファベットを選択し変換パッファに入れると、今度は英大文字が入力できる(012)

以上、全ての機能の詳細を説明すると大変なので、後はマニュアルを見ながら実際に使ってみてほしい。最初のうちは入力がかかなり大変であるが、慣れてしまえば案外簡単だ。携帯電話で猛烈なスピードでメールを打ち込んでいる人をよくみかけるが、このP/ECEを使って片手で高速文字入力を行うのも、なかなか格好良いものだ(013、014)。



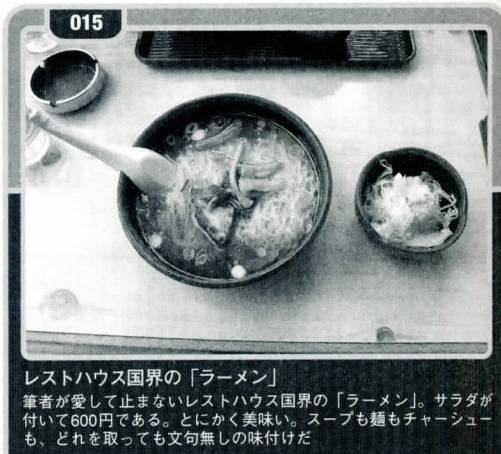
P/Editのバージョン情報

現在のバージョンは、2.08。ソフトウェアは、筆者の個人HPよりダウンロード可能なので、是非試してみてください





014  
P/Editでテキストファイルを表示させたとこ  
P/ECE上に転送したファイルを開覧することも可能



015  
レストハウス世界の「ラーメン」  
筆者が愛して止まないレストハウス世界の「ラーメン」。サラダが  
付いて600円である。とにかく美味しい。スープも麺もチャーシュー  
も、どれを取っても文句無しの味付けだ

## 🔌 P/Editのユーティリティ

P/Editのアーカイヴには、操作性を向上するためのユーティリティソフトが2つ同梱されている。1つはP/Editのひらがな・英数入力時のキーアサインをカスタマイズするためのユーティリティプログラム「mkkmp.exe」

で、もう1つはP/Edit用のかな漢字変換辞書ファイルである「pedit.dic」をカスタマイズするためのユーティリティプログラム「mkpindex.exe」で

ある。どちらもPCのDOSプロンプト上からコマンドラインで使用する。キー配列の設定と辞書のカスタマイズを行えば、自分好みのエディタに仕立て上げることも可能である。

### ●mkkmp.exe

P/Editでは十字カーソルキーを使用した行列選択方式で、五十音とアルファベットを選択する方式を採用している。デフォルトで設定されているキー配列は、初心者でもキー配列が覚えやすいように、五十音順の配列となっている。しかし、文字の出力頻度に応じた配列にすれば、より操作性をアップさせることが可能となる。このような場合に、本ユーティリティを使用し、キー配列を好みのものに変更することが可能だ。具体的には、テキストエディタを用いてキーアサイン定義ファイル「\*.def」を作成し、mkkmp.exeを用いてキーアサインリマップファイル「pedit.kmp」を生成するというプロセスを取る。このユーティリティソフトは、アーカイヴの「pc-key」というフォルダに格納されている。

### ●mkpindex.exe

P/Editで使用するか漢字変換辞書をカスタマイズするツールである。具体的には、まずテキストエディタを用いて辞書ファイル「pedit.dic」内のエントリーを好みに応じて追加・修正・削除する。辞書ファイルを変更したら、mkpindex.exeを使用し、辞書ファイルアクセス用インデックスファイル「pedit.idx」を作成する。最後に、辞書ファイルとインデックスファイルを本体に転送すれば終了だ。このユーティリティソフトは、アーカイヴの「pc-idx」というフォルダに格納されている。

## 🔌 おわりに

秘湯マニアの筆者は、小谷温泉山田旅館を定宿として利用している。毎年春5月、秋10月、そして厳冬の冬2月の年3回は、この鄙びた趣のある旅館を訪れる。今回も5月連休を利用して、山田旅館を訪問した。小谷の源泉は、ナトリウム炭酸水素塩泉、すなわち重曹泉であり、慢性の消化器病に良く効く。胃腸の弱い筆者にはもってこいの湯治となるのである。さて、小谷温泉に行く途中、必ずと言っていいほど立ち寄るレストランがある。松本市の南、JR広丘駅の近くの、国道19号沿いにある「レストハウス世界」だ。ここの店の名物は、なんといってもラーメンである(015)。600円の世界ラーメンは、スープといいチャーシューといい麺といい、どれを取っても文句無しに美味しい。まさに病みつきになる味なのである。訪れる機会があれば、是非食してみたい。リピータになることまちがいない。